

編集・発行 Japan Business Association of Southern California
1411 W. 190th St. Suite 220, Gardena, CA 90248
Phone: 310-515-9522

制作協力 Lighthouse

©JBA 2022 本誌掲載の記事・写真の無断複写、複製、転載を禁じます。

商工部会

「JALDレセプション」報告

去る3月11日、ダウンタウンLAにあるMiyako Hotel Los Angelesを会場に、日系人リーダーたちを集めたイベント、「JALDレセプション」を開催した。

日米交流を担う新世代に期待

「JALD」とは「Japanese American Leadership Delegation」の頭文字を取った略称で、日本語名称は「在米日系人リーダー訪日プログラム」。外務省の主催により、「日米友好と相互理解の促進」「在米日系人の役割拡大」「日系人リーダーのネットワーク構築」を目的に掲げるプログラムで、毎年アメリカ社会で活躍する日系アメリカ人リーダーを全米各地から選出し、日本に派遣し、政府、財界、学術界との交流を促してきた。また、訪日団の引率は米日カウンシルの会長が務めてきた。

ところが、20回目となるはずだった2020年は、コロナ禍により、既に選出されていた日系人リーダーたちの日本への派

遣が延期となった。今回の「JALDレセプション」は、コロナ禍の終息が予測される2023年に改めて10名のリーダーたちを日本に派遣することが決定したことを受け、リーダー、関係者らが再会する懇親会としてJBAが開催したものだ。

同会は6時30分にジャパンハウス館長・海部優子さんの進行でスタート。また、海部さんの提案により、11年前の同日に発生した東日本大震災の犠牲者を追悼する黙とうが、会場に集まった全員によって行われた。

黙とうに続いて、今回のレセプションを主催したJBAの小林弘典会長が、「JBAとして、このように素晴らしいプログラムのお手伝いができることを心から誇りに思うと共に、これまでの厳しいコロナ禍を乗り越えた後に、今回のような対面式のイベントで皆さんが再会できたことをうれしく思います」と挨拶した。

続いて来賓の武藤顕在ロサンゼルス日本国総領事がスピーチを行い、「日本はポストコロナに向けて進んでいます。今後は米国からの日本への訪問者が再び増えていくはずで、そして、今日ここに集まったリーダーの皆さんは日米交流の次のフェーズを担っている方々として、その活躍に期待しています」と述べた。

また、米日カウンシルCEOのスザンヌ・バサラさんはスピーチで、東日本大震災後に立ち上げられた官民パートナーシップ



派遣される10名と在ロサンゼルス日本国総領事館、米日カウンシル、JBAから40名がレセプションに出席。

「TOMODACHIイニシアチブ」についての思い出に触れ、「TOMODACHIイニシアチブに関わったことで、日本と個人的にもまた組織を通じても非常に近いつながりを実感しています」と語った後、「JALD」もまた日米間の交流促進の大きな役割を担っていることを強調した。

そして、米日カウンシルの創設会長のトーマス・イノさんは、「JALD」プログラムの発案者である米日カウンシル前CEOの故アイリーン・ヒラノ・イノウエさんの名前を挙げ、「アイリーンのヒューマニティーに!」と乾杯の音頭を取った。その後、10人のリーダーたちの自己紹介に続き、在ロサンゼルス日本国総領事館、米日カウンシル、JBAを代表してレセプションに集まった参加者たちは、夕食を取りながら楽しい歓談のひと時を過ごした。

2023年に日本に派遣される10名のリスト:

FREDERICK H. KATAYAMA	Executive Vice President, U.S.-Japan Council
GEORGE KOBAYASHI	President/Shareholder, Masuda, Funai, Eifert & Mitchell, Ltd.
JEFFREY KOJI MALONEY	Chief Counsel, Santa Monica Mountains Conservancy
KARA MIYAGISHIMA	Program Manager, National Park Service
MARK OKADA	Co-Founder & Managing Partner, Sycamore Tree Capital Partners L.P.
CHRISTINE PILCAVAGE	Managing Director, MIT Japan Program, MIT International Science & Technology Initiative Massachusetts Institute of Technology
CALVIN TERADA	Director – Superfund and Emergency Management Division U.S. Environmental Protection Agency – Region 10
LORI TERANISHI	CEO & Founder, iQ 360
KENTA WASHINGTON	Commander (Ret.), U.S. Navy
AUDREY YAMAMOTO	Chief Operating Officer, The Asian American Foundation

「日本企業のグローバルマーケティング広報活動からケーススタディーを学ぶ」

去る2月23日、日本企業がグローバルな広報活動で成功を収めるための戦略について解説するビジネスセミナーを、クリエイティブディレクターの佐野さんを迎えてオンラインで開催した。

【講師】

佐野尚吾さん

Hive Los Angeles / Hive Tokyo
代表取締役兼クリエイティブディレクター。

立教大学文学部卒。旧旭通信社(現ADK)にコピーライター/CMプランナーとして入社。2004年、LAのクリエイティブディレクターC2Kにクリエイティブディレクターとして入社。トヨタ自動車、キャンホンアジアパシフィック、MS&ADホールディングスなどのグローバルクリエイティブ制作に従事。18年、Hive Los Angeles / Hive Tokyoを設立。



グローバルなコンテンツで壁を乗り越える

最初に佐野さんは、日本企業にとっていかにグローバルな広報活動が必要かを説明した。「日本企業は国内市場の人口減少に伴い、海外市場へとその企業成功を加速しています。海外の売り上げの伸びが成長の鍵になっているため、グローバル化が強く望まれているのです。ただし、グローバルなコンテンツを作成する必要があります。これまでは国別にコンテンツを作るのが普

通でしたが、一つのコンテンツで共有できればコスト削減につながります」。

グローバルなコンテンツを作成する上で留意すべきは、さまざまな壁を越えることだと佐野さんは強調した。そこで、それぞれの壁の克服方法について、佐野さんが過去に手がけたプロジェクトを紹介しながら解説が行われた。

【ケーススタディー1】

言葉の壁を越える(オリンパス)

「全世界統一ブランドの小型カメラのコンテンツを7言語で作りました。そこで、プロジェクトチームをマルチナショナルにして、主要スタッフはインハウスで構成し、品質を担保しました。小型で手持ち可能なカメラという製品の特性上、アウトドアでのワイルドライフを撮影するというコンテンツで、ロケ地はアメリカに決定。実機を動画にも静止画にも使用して、カメラマンは動画も静止画も撮れるカメラマンをアサインしました。多国籍なクリエイティブチームでどの言語でも対応するストーリーフローを作ったこと、チームの人数をできるだけ少なくして少数精鋭でコミュニケーションの質を上げることに留意しました」。

【ケーススタディー2】

宗教の壁を越える(キヤノン)

「商品は小型ビデオカメラで、訴求対象は子どもの成長を記録に残したいという富裕層のファミリー。東南アジア諸国のエリアで展開するコンテンツだったので、モデルにはコンチネンタルルックの人材を選定。東南アジアは宗教的に複雑なエリアで、仏教、キリスト教、イスラム教、ヒンズー教などの信者がいるため、企画チームに宗教の専門家を入れ、宗教上のタブーを回避しました」。

【ケーススタディー3】

SDGs・D&I(ダイバーシティ&インクルージョン)の壁を越える(MS&AD)

「近年は環境保護、企業統治、多様性などの企業文化をアピールするグローバル広報の重要性が高まっています。MS&ADは、社員の半分以上が女性ですが、経営陣の女性比率は低いという問題があり、日本企業らしい状況と言えました。そこで、まず遅れている現状を話し合い、D&Iは日本が圧倒的に遅れていることを理解し、その上で前向きな姿勢を示すというメッセージを送りました」。

【ケーススタディー4】

グローバルブランドの壁を越える(トヨタ)

「本格的なプラグイン・ハイブリッド車『プリウス・プライム』の発売に当たり、プリウスを凌駕する先進的イメージを表現するため、トップクラスのCGを使用したいと希望しましたが、見積もりを取ったCGハウスの5社のうち4社は予算の倍でした。1社は他社の半分の見積もり額でしたが、演出力に物足りない部分がありました。そこで、CG演出部分を私がやることで、予算を削減しました。自動車は機能価値が求められる商品で、動画の品質が商品の品質に直結します。動画の品質に妥協しないことが重要です」。

そして、参加者からの「グローバルコンテンツ制作に重要なポイントとは?」との質問に、佐野さんは「多国籍のチームで取り組んだ上で、いろいろな視点でチェックしていくことです。チームに英語のネイティブは必ず入れてください。また、ストーリーローを意識してどの国の人が見ても違和感がないものを作り上げてください」と回答して、セミナーを終了した。

極上の和食、いせしま。

Ise-Shima
at the MIYAKO

都ハイブリッドホテル1階
(310) 320-6700
www.ise-shima.us

トランスとダウンタウン 都ホテルは2つのチョイス。

MIYAKO
HYBRID
HOTEL

都ハイブリッドホテル トランス・カリフォルニア
21381 S. Western Avenue, Torrance, CA 90501
Phone: (310) 212-5111 Fax: (310) 212-5112
www.miyakohybridhotel.com

MIYAKO
HOTEL
LOS ANGELES

都ホテル ロサンゼルス
328 E. First Street, Los Angeles, CA 90012
Phone: (213) 617-2000 Fax: (213) 617-2700
www.miyakola.com

ご宿泊はJBA会員企業特別料金をご利用頂けます。詳細は各ホテルへ直接お問い合わせください。

教育文化部会
教育セミナー報告

「読む力を育てる
読み聞かせの方法」

2月27日、子どもの読みの力を育てていくための読み聞かせの方法について、ダグラス教授がウェビナーで解説した。

【講師】

ダグラス昌子さん

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校アジア・アジアアメリカン研究学部日本語科名誉教授。専門分野は継承日本語の発達、カリキュラムデザイン、リテラシーの発達など。南カリフォルニア大学卒。教育学博士。



バイリンガルの能力の認定

最初に林教育文化部長が挨拶し、「JBAの主要ミッションの一つが教育文化支援活動です。今年も昨年に続き、ダグラス名誉教授にご協力いただきます。参加者の皆様にはお休みの日にご参加いただき、心からお礼を申し上げます」と述べた。

次に講師のダグラス教授が登場し、本題に入る前に昨年のセミナーで紹介した日本語教育推進法の最新情報を紹介した。「日本語教育推進法が改定されて、日本に帰国予定のお子さんだけでなく、(アメリカに)永住予定のお子さんでも支援の対象に追加されました。しかし、帰国予定のおさんは文科省の管轄、永住予定は国際交流基金

の管轄となっています。枠を取り外してほしいと海外からも要請していますが、縦の壁が崩せていない状況です。国際交流基金はNHKの幼児番組のDVDを配布していますので、ぜひ活用してください。『おかあさんといっしょ』『いないいないばあ』などのNHKの幼児番組は非常によく研究されて制作されていますので、海外で育つお子さんの日本語教育に有効だと思います。

さらに、子どものバイリンガルの能力の認定となるSeal of BiliteracyとGlobal Seal of Biliteracyについて説明した。「Seal of Biliteracyは高校3年時に取得するものですが、州が違っていると認定の基準が異なるという問題があります。一方のGlobal Seal of Biliteracyは全世界でレベルが統一されています。これらのシールを高校卒業前に取得するように推奨します。子どもの日本語習得のモチベーションにつながる可能性もあり、これらを取得しておくことで、大学での外国語の履修が免除されたり、上のクラスに進めたりする大学も増えてきています。就職の際にも言語力の証明となります。ここまでが昨年のセミナーのキャッチアップです」。

読み聞かせは量より質

続いて、ダグラス教授は読み聞かせの方法にテーマを移した。「読み聞かせの効用は、知識を得るだけでなく、想像の世界を広げていくことができ、それが抽象的、論理的思考の育成につながるということです。また、読み聞かせをすることで、親子間の対話が促進され、子どもの話し言葉も発達していきます。また、読み聞かせで意識してほしいのは量より質を重視することです」。

読み聞かせの質を高めるにはインタラクティブに行うことがポイントになるとダグラス教授は強調した。そこで、インタラクティブな読み聞かせの見本を示すために、ダグラス教授は『ひゅーどろとへんでこしんにゅうせい』という絵本を、子どもを相手にしているという想定で実際に読み、分からない言葉や内容についての質問をさせたり、話の先を予測するようなやり取りをしたりしながら読んでほしいと話した。さらに「物語が終わったら、どこが面白かった?などと内容についての質問をし、子どもがきちんと理解したかどうかを確認するようにしましょう」とアドバイスした。「インタラクティブな読み聞かせを通じて、子どもと対話しながら理解を促進することができ



ダグラス教授と、同セミナーの企画から当日の運営まで担当した、教育文化部会担当員の面々。

ます。子どもが知っているだろうと思われる当たり前の質問はせず、子どもの興味を引き、考えさせるような質問をしましょう。子どもが好きな本であれば、読むたびに理解が深まるので繰り返し読むと良いでしょう」。

壁を乗り越えるための手助け

そして、ダグラス教授は読み聞かせは幼児期だけにとどまらず、高学年になっても重要だと続けた。「読みの力には2つの壁が存在します。小学校1年生の時の壁は、自分で読まなければならないという壁。次の壁は小学校4年の時で、『読むことで学ぶ』から、『学ぶために読む』と目的が変化することで、子どもには非常に大きな壁になります。乗り越えるための手助けが必要です。子どもは学ぶ時はまず理解ができたという達成感を得ることで先に進むことができます。ですから、家庭で読み聞かせを行うことで教科書の内容を先に理解させておき、次に学校で学ぶという順番を踏むと良いでしょう。次に「教科書の読み聞かせに関してもインタラクティブな方法を推奨します」とし、小学6年生の国語の教科書を実際に読むことで、高学年向けの読み聞かせの手本を紹介した。「内容が複雑な高学年の本は、段落ごとに立ち止まってストラテジーを体験させつつ、その部分を子どもが理解できているかどうかを確認しながら読み進めてください」と、インタラクティブな読み聞かせを行うことで、子どもが理解しているかを必ず確認するようにと語った。

参加者からの「読み聞かせは動画やアプリでも効果はありますか?」との質問に対して、ダグラス教授は「これまでの説明でご理解いただけたと思いますが、インタラクティブな読み聞かせと比べると答えは自明ですね」と回答し、保護者が子どもの日本語の読みの力を伸ばすためにしっかりとサポートし、日本語の本を読む時間を設けるようとのメッセージを送り、今回のバイリンガル教育セミナーを締めくくった。

現在の状況



日本語教育推進法

帰国予定のある海外在留邦人家庭の子どもと、永住予定の海外在留邦人家庭の子どもは管轄が異なります」と説明された(セミナーのスライドより)。

アメリカで活躍する JBA会員企業 インタビュー

File
#34

ここアメリカで活躍するJBA会員企業の事業概要に加え、回答者の南カリフォルニアでの生活に迫るコーナー。



お話をうかがったのは
西堂慶さん

LA Office Manager / Producer
アメリカ・ニューヨーク州出身。慶應義塾大学卒業後、東京で映像のディレクターとして主にウェブ動画を制作。その後サイバーエージェント子会社にライブコマース事業の立ち上げメンバーとして参加。「AbemaTV」や「Youtube」でのライブ配信番組の企画/制作、視聴データ分析や企業ECサイトのデータ分析を担当。クリエイティブの制作経験と日米双方の商習慣に対する理解を強みに、2019年 Flag Pictures, Inc. の設立とともに事業責任者へ就任。
<https://flag-pictures.global/>

貴社の事業内容について教えてください。

当社は、映像制作、ライブ配信、ウェブサイト制作のプロダクションであり、オンラインPR、ソーシャルメディアマーケティング、ウェブ広告を手がけるデジタルエージェンシーです。企画から制作、宣伝までをワンストップで請け負っています。非常にクオリティの高い作品を提供すると同時に、顧客の予算に応じてコストを抑えた料金で対応していることも当社の強みであると自負しています。

アメリカ法人を設立したのは2019年です。設立の目的は、日本の企業が海外市場向けのマーケティングを行う際に、実際に海外で撮影した映像を使用しないと難しいということから、現地での撮影、制作を行うためでした。建物だけを取っても、日本の建物と海外の建物では全く違います。そして、海外の視聴者にとっても最適な映像を制作し、日本企業の海外進出をサポート

Flag Pictures, Inc.

日系企業の海外進出をデジタルエージェンシーとしてサポートしているFlag Pictures, Inc.の西堂さんに、事業内容や仕事に取り組む上でのポリシーなどを伺いました。

トすることを目指しています。

コロナ禍による事業への影響と今後のビジョンについてお聞かせください。

問題は、コロナ禍の影響で実際の撮影が困難になってしまったことでした。しかし、実写以外のCG、イラスト使用をこの間に促進したこと、さらに物理的なイベントが減った分、デジタルマーケティングの可能性が広がったことがコロナ禍の収穫だったと思います。今後はこの経験を踏まえて、B to Bのデジタルマーケティングにさらに尽力していく予定です。

また、働き方に関しては、これからもリモートワークを継続していきます。実際に出勤するのは月に1、2回です。体制としては、基本的にクリエイターはアウトソースで、2名在籍している私を含む社員はクライアントとのやり取りを含めクオリティ管理を担当します。フリーランス人口が1670万人の日本に対し、実に5900万人のフリーランスを抱えるアメリカではアウトソースの選択肢が広く、環境的にも恵まれていると言えます。

仕事の上で大切にしている考え方はありますか？

私が仕事に取り組む上で大切にしているのは、常に高いクオリティを追求することです。しかし、私はクオリティという言葉を一時的にではなく流動的に捉えています。

例えば、デジタルコンテンツを作成するにしても、何を伝えたいのか、誰に伝えたいのかなど、目的によって「良質なクオリティ」の定義が変わってくるからです。そこで、携わるプロジェクトごとにクオリティについて考え、その実現に向けて取り組んでいます。

また、私たちの仕事はいかにクライアントの問題をコンテンツ制作で解決するかということです。クライアントが求めるリクエストに沿って、その問題を解決することが最優先事項だと理解しています。ですから、



Flag Pictures, Inc.制作のプロモーション動画の一部

プロジェクトが終了した時にクライアントから「このプロジェクトのおかげで助かりました」と言葉をかけられると、何より大きなやりがいを感じますね。

南カリフォルニアの印象や余暇の過ごし方をお聞かせください。

ロサンゼルスに来る前は東京に、その前はニューヨークに12年暮らしていました。ニューヨークでは雪が多い地域に住んでいたこともあり、東京やニューヨークに比べるとロサンゼルの気候ははるかに過ごしやすく快適です。

南カリフォルニアの余暇の過ごし方については、実は私はインドアな人間でして(笑)、ひたすら仕事する以外は室内でオンラインゲームに興じています。あとは、ちょこちょこ、おいしいラーメン屋さん巡りをすることが趣味です。

今後の目標としては、せっかくロサンゼルスに住んでいるんですから、今までチャンスがなかったゴルフを始めてみたいと思っています。

JBAに期待することとは、どのようなことでしょうか？

現在、私は企画マーケティング部に所属し、JBAのビジネスセミナーの企画運営に携わっています。この活動を通じて、業界を越えたさまざまな方と出会えること、また非常に勉強にもなっていることに感謝しています。今後も引き続き部会活動に従事し、JBAに貢献していきたいですし、より多くの方々との交流が生まれることを期待しています。

各部会からのお知らせ

ダウNTOWN地域部会

「Genesis Invitational 観戦ツアー」を開催しての感想文

文：Mitsubishi Corporation (Americas)・三木裕一さん

去る2月20日(日)、ダウNTOWN地域部会にて、「Genesis Invitational」PGAゴルフ観戦ツアーを開催しました。開催コースは、パシフィックパリエーズの高級住宅街にある名門、The Riviera Country Club。クラブハウスに入ることが可能なClubhouseチケット20枚、目当ての選手のプレーを間近で観戦できるGroundチケット60枚は早々に完売となりました。

Clubhouseチケットを購入された方は、JBAが主催するツアーに参加可能で、当日は松山英樹選手のスタート時間と重なってしまったにもかかわらず、午前9時から約15名の方がツアーに参加されました。ツアーは、The Riviera Country ClubのCFOである寺嶋様に案内していただき、同クラブの歴史、タイガーウッズや松山選手に関わる興味深いお話から始まり、その後クラブハウスに移動しての見学ツアーでは、往年のハリウッドスターやベン・ホーガン、ツアーデビュー当時のタイガーウッズの写真を眺めながらThe Riviera Country Clubの由緒ある歴史を説明いただきました。館内ツアーの最後には、Genesis Invitationalを主催するタイガーウッズ基金の代表であるDave Klewan氏により、同基金の活動などの説明をいただきました。

木曜日から始まった4日間の大会は、世界ランクトップ10の選手が集結し、天候にも恵まれ観戦日和となりました。唯一の日本人選手である松山選手は、序盤苦戦したものの予選通過を果たし決勝ラウンドに進



The Riviera Country Clubでツアー参加者の記念写真。

出。最終日に松山選手のプレーを見ることができ、中でもグリーンが傾斜地獄ともいわれる名物6番ホールでのラフからのアプローチショットでは、ピン傍に寄せる見事なプレーがあり、ギャラリーからも歓声が沸き起こりました。試合は最終日も順調に進み、初日から首位を守ったホアキン・ニーマン選手が完全優勝を飾りました。新型コロナウイルスの感染状況が改善する中、今回このゴルフ観戦ツアーに参加できて、思いに残る良い一日となりました。

「懇親ゴルフ大会」を開催しての感想文

文：Covington & Burling LLP・木本泰介さん

去る3月5日(土)ダウNTOWN地域部会主催の懇親ゴルフ大会がMiles Square G. C.で開催されました。2月初めに応募したところ32名の参加枠は数時間で埋まってしまう、会員の皆さまにとっては人気のイベントの一つであることがうかがわれました。

大会当日、受付には早くから参加者が集まり、練習場でのウォームアップに勤しむなど、皆さまのやる気と積極性がひしひしと伝わってきました。晴れてはいたものの、強風(というより暴風)が吹き荒れ、気温も華氏50度台と難しいコンディションの中、32名のプレーヤーがスタートしました。

今まで体験したことのないような暴風で、ゴルフボールが風に押されて10ヤード以上も戻されたり、少しボールを曲げるミスが風によって増幅されたり、パッティングですら風でボールが曲がっていったりと、過酷なコンディションではありましたが、皆さまげもなく、無事ラウンドが終わりました。

大会終了後は、改善の兆しがあるもののコロナ禍の影響を踏まえて食事は提供せず、懇親会から名称を変更した順位発表会が執り行われました。参加企業をはじめ、JBA会員企業から数多くの豪華賞品が用意され、参加者全員に何らかの賞品が渡され、皆さま満足されて帰途につかれたことと思います。



強風に負けずにプレーを楽しんだ参加者の皆さん。

最後になりましたが、本大会を企画遂行したダウNTOWN地域部会の担当班の皆様、綿密なご準備とスムーズな進行をしていただき、誠にありがとうございました。

サウスベイ地域部会

「ゴルフ講座」に参加しての感想文

文：Nippon Express U.S.A., Inc.・吉浜孝之さん

呼子先生およびサウスベイ地域部会の皆さま、今回は大変有益な企画を催しいただき、ありがとうございました。何年経ってもハンデの減らない自分にとっては大変ありがたい内容でした。日頃、「YouTube」のゴルフレッスンなど見て自分なりに学習していましたが、やはりプロの方に説明をいただくのは違いますね。スコアメイクにはパターとグリーン周りのアプローチの重要性は分かっていましたが、地味な練習なので、練習場に行くとその時間の大半はドライバーやアイアンのフルショットに費やしており、パッティングやチップングの練習はほとんどしていませんでした。またスコアカードにライン、歩測数、パット数、そしてメンタルスコアの記録を書き込み、自分の傾向を勉強するというのも大変参考になりました。ぜひ今後の練習とラウンドに取り込みスコア向上を目指したいと思います。もっともっとお話しをお聞きしたいので、ぜひ第2弾を計画していただければうれしいです。



オンラインによる「ゴルフ講座」の様様。

オレンジカウンティ地域部会

「Online 料理教室」に参加しての感想文

文：HORIBA Instruments Incorporated・川口孝彦さん

去る2月6日(日)、一家4人(妻、3歳息子、1歳息子、私)で「Online 料理教室」に参加しました。品目はピンクフムス、ステーキ、ラズベリームースの3種類で、レシピは事前に配布されていました。フムスもラズベリームースも初めてで、うまくいくが緊張していましたが、時間になり、いよ

いよ料理教室が始まりました。

まずはラズベリームースの準備。ラズベリーをピューレにしたり、ゼラチンを溶かしたり、息子が大張り切りで楽しんでいました。ステーキはフライパンで焼き目を付けた後、オーブンで仕上げます。先生が全員の肉の厚さと焼き加減を確認し、オーブンでの調理時間を教えてくださいました。ピンクフムスは材料をブレンダーで混ぜるだけで完成と、簡単でびっくり。その後、先生の教えを参考に盛り付け、普段とは違う豪華で、全品バレンタインらしくピンク色が入ったごちそうが完成。その後、希望者で先生と懇談しながら料理をいただきました。

どの料理も本当にとってもおいしかったです。ステーキは信じられないぐらいジューシーで柔らかく、フムスも自分好みの味にできて大満足です。ラズベリームースも自分で作ったとは思えない出来でした。先生には料理に関する質問やオレンジ・カウン



この日作ったピンクフムス、ステーキ、ラズベリームース。



先生と歓談しながら楽しく料理を学びました。

ティール近くのおすすめのお店なども教えていただきました。先生がこまめに全員の進捗を確認くださり、スムーズかつ上手に料理できました。また、普段作らないおいしい料理を家族と一緒に作れてとても楽しかったです。

あさひ学園日より

2021年度 卒園・卒業式

文：あさひ学園事務局

3月中旬、令和3(2021)年度幼稚園の卒園式、小学部、中学部および高等部の合同卒業式を行いました。既に開校しているサンゲブル校は練習や準備ができましたが、オンライン授業を続けていた他の3校は、実に2年ぶりとなる対面での実施となりました。

卒業式の準備は朝早くから急ピッチで整え、卒園生の練習は1回のみ。にもかかわらず、本番では幼稚園の卒園生は、呼名をされたら大きな声でお返事、また卒園証書は両手でしっかりと園長先生からいただくことができました。

小学部6年、中学部3年、高等部2年の卒業式は合同で実施。コロナ禍のため来賓をお迎えせず、在校生もいない中ですが、厳粛な雰囲気で行われました。それまで卒業生は、担任の先生によるオンラインでの指導により練習を重ねてきました。2年ぶりの学校では、友達に会えた喜びに加え、卒業まで努力を積み重ねたお互いに対して激励し合いました。特に高等部卒業生は、あさひ学園を本当に巣立っていく希望と喜びに満ち溢れていました。中には、幼稚園から12年間通った者も多く感慨深げでした。

在口サンゼルス日本国総領事館の武藤

総領事からは祝辞をいただき、卒業生に披露させていただきました。卒業生は、この大きな節目をコロナ禍という中で迎えるながらも、多くの方々からの祝福いただいたことは忘れられない思い出となるでしょう。

令和4(2022)の新年度は、4月9日に始業式、翌週16日には入園・入学式を行います。今回幼稚園を卒園した子どもたちの多くは、4月からは本校小学部新1年生として新しいスタートを迎えます。また、小学6年を卒業した児童は、新たに中学部1年となって入学します。本校は、4月からは全校開校にて授業を実施するべく準備を整えています。子どもたちが充実した学校生活を送れるよう、補習授業校として最大のサポートを行っていきます。また、年間を通してどの学年でも編入を受け入れていきますので、入学にご興味のある方は事務局までお尋ねください。



校長先生からの式辞に緊張している卒業生たち。



努力の成果で、晴れやかな高等部卒業生たち。



Investment Banking & Consulting

低迷が続く日本経済、マイナス金利いまこそ余剰資金をM&Aに活用し、米国で事業成長を支える将来の資産を形成しましょう！

M&A、経営戦略のアドバイスに高い実績を誇る専門集団である Takenaka Partners は、30年以上に渡り米国の日系企業の成長戦略を担ってきた豊富な実績と経験を有しています。

インベストメントバンキング

- M&A、戦略的アライアンス、合併、出資
- 買収、提携候補企業のグリーンフィールドリサーチ
- ポストマージャーインテグレーション
- 財務及びビジネスデューデリジェンス
- 企業価値算定 (Valuation)

コンサルティング

- 成長戦略構築コンサルティング
- 戦略的アライアンスのためのマッチメイキング
- 海外進出コンサルティング
- 財務・オペレーションの分析・見直し
- 市場・業界・競合分析
- 新しい企業の発掘及びライセンスング

米国市場への新規参入や既存事業の拡大・多角化は、M&Aや戦略的提携をうまく活用することで、時間とコストを大幅に削減し、効率良く実行することが可能です。Takenaka Partnersは、相手企業との交渉、デューデリジェンス、企業価値算定などの基本業務に加え、日系企業独自の企業文化や成長戦略を理解した上で最適な相手企業を探し出し、クロージング交渉までフルサポートいたします。

Takenaka Partners LLC
801 S Figueroa St. Suite 620
Los Angeles, CA 90017

連絡先：(213) 399-8400 (竹中)
(213) 800-2274 (Tan)
(408) 718-8064 (篠原)

新入会企業紹介

JBA会員の約500社の皆さまとの交流を通じて、多くの知見を頂き、そして我々も多くの貢献をしたいと考え、入会をさせていただきました。



中村知哉さん

GLOBIS USA, Inc.

DATA

住所：95 Third St., 2nd Fl., San Francisco, CA 94103
 ☎ 415-720-7256
 Web：https://globisusa.com/
 責任者：中村知哉 (President)
 従業員数：4人
 他の営業拠点：なし

グロービスは1992年に創業し、日本で経営大学院、企業研修・コンサルティング、ベンチャーキャピタル、eラーニング、書籍「MBAシリーズ」などを展開している。グロービス経営大学院は年間1000人以上の入学者を迎え、日本でナンバーワンの規模に成長している。

グロービスUSAは2021年に設立し、今後、米州全体を対象にした活動を行っていく。米州で活躍する人々に、「事業成功に必要な普遍的なスキル・志」「最新のトピック・ナレッジ」を大学院や企業研修を通して提供する。

アメリカでビジネスを展開されているJBA会員の方々との交流を深めさせていただき、米国事業の新たな可能性について考えていく機会になればと楽しみにしております。



今中努志さん

GL Sciences, Inc.

DATA

住所：609 Deep Valley Dr., Suite 200, Rolling Hills Estates, CA 90274
 ☎ 310-265-4424
 FAX：310-265-4425
 Web：https://www.glsciencesinc.com/
 責任者：今中努志 (Vice President)
 従業員数：5人
 他の営業拠点：日本 10カ所、オランダ、中国・上海

GL Sciences, Inc.は、2005年にジーエルサイエンス株式会社の米国法人として設立された。世界最大の科学分析市場である米国において、クロマトグラフ製品を米国で販売するとともに、レベルの高い米国顧客の諸要求を的確に、技術開発、製品品質へとフィードバックしていくことを目的にしている。

今後は自社製品だけでなく、パートナー企業製品も米国内で販売およびサポートしていく予定です。

日系企業の皆様と交流の機会を頂き、情報交換をできればと思い、入会させていただきました。



宇野良平さん

HARIO USA, INC.

DATA

住所：300 Continental Blvd., Suite 180, El Segundo, CA 90245
 ☎ 646-939-5402
 Web：https://www.hario.com/
 責任者：宇野良平 (President)
 従業員数：8人
 他の営業拠点：東京本社、大阪、名古屋、福岡、広島、上海、韓国、オランダ

理化学品の加工から始まったHARIOは、創業100周年を迎えた。耐熱ガラス溶融の研究を続け、家庭用品に応用できるようになると、さまざまな製品を開発。さらに世界バリスタチャンピオンに使用されたことでヒットし、今や定番となった円錐型コーヒードリッパー「V60」をはじめ、世界中に製品を提供している。

今後は南米や欧州に比べて Specialty Coffeeに馴染みの少ない米国市場で、コーヒードリッパーだけでなく、お茶、料理器具、繊細なガラスのアクセサリーを展開していく。

監査・税務・コンサルティング・日米会計総合サービス プレーガーマティス会計事務所

全世界の主要17都市に事務所を置く世界トップ10の
 国際会計事務所の日系部門「NAGANO MORITA」が
 米国進出・事業拡大を徹底サポートします！

pragermetis.jp

NAGANO
 MORITA
 a Division of

Your world. Worth more.
 プレーガーマティス
 PragerMetis

4月のJBAイベントカレンダー

※各イベントの詳細は、JBAウェブサイトをご覧ください。

4/10 (日) OCハイキング & イースターラッフル! ~Mustard Flowerを見に行こう!~ オレンジカウンティ地域部会

「パシフィックリム・カンパニーベネフィット・プログラム」は 米国駐在員の皆さまのニーズにお応えします

- ・渡米前に日本で米国の銀行口座を開設し、生活費を送金したい
- ・米国赴任中も銀行口座について日本語でやりとりしたい
- ・米国到着後、すぐにカードで現金を引き出したい
- ・日本帰国後も米国の銀行口座を利用もしくは帰国後に解約したい

まずは日本語コールセンター **1-888-507-7669**

(フリーダイヤル・日本時間にも対応)までお問い合わせください。



A member of MUFG, a global financial group

©2021 MUFG Union Bank, N.A. All rights reserved. Member FDIC. Equal Housing Lender.

Union Bank is a registered trademark and brand name of MUFG Union Bank, N.A. Visit us at unionbank.com/prcb



海外への進出企業を一括サポート

オフィスや倉庫、工場などのリースから、社員用住宅まで
不動産に関する事は、お気軽にご相談下さい。



日系不動産仲介企業の リーディングカンパニー

スタートは東証一部上場。L.A.店は1989年設立。営業所は
オールドトランスにごさいます。いつでもお気軽にお立ち
寄りください。日本人スタッフがお待ち致しております!

海外への進出企業を 一括サポート

オフィスや倉庫、工場から、社員用住宅まで、日系企業様の
不動産ニーズに即したサービスを高いレベルで提供いたします。
飲食店のご相談もどうぞ。

もちろん、個人の 住宅もサポート

ご自宅の購入・売却から、賃貸物件の管理までお任せ下さい。
投資や節税に関するご相談も無料で受け付け中です。ご帰
国時の日本でのお住い探しもご相談下さい。

●ロサンゼルス店:

TEL (310) 782-7877

21151 S. Western Ave. #227, Torrance, CA 90501

info@startsla.com

www.starts.co.jp/la

●ニューヨーク店:

TEL (212) 599-7697

www.startsnewyork.com

●サンJose店:

TEL (408) 380-2499

www.starts.co.jp/sanjose

●スタートコーポレーション株式会社:

TEL (03) 6202-0111 (代表)

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目4-10

スタート八重洲中央ビル

www.starts.co.jp

●ハワイ店:

TEL (808) 947-2280

www.startshawaii.com

●ダラス店:

TEL (646) 708-6194

https://kaigai.starts.co.jp/dallas



さあ、次の目的地へ。

Hitachi Solutionsはソリューションポートフォリオを、
Digital Compass™として体系化しています。

業務システムの改善から、データ分析・AI技術の適用、
Office環境の構築・移行から、システムの運用管理・
ユーザートレーニングまで、課題や状況に合わせ、
最適なソリューションを提案。

貴社を次の目的地までナビゲートします。



お問合せ

+1-650-615-7621

info-jp@hitachisolutions.com

担当: 高木・黒田まで

Webをチェック

<https://global.hitachi-solutions.com/>

Microsoft
Partner



2021 Partner of the Year Winner
Dynamics 365 Field Service Award
2021 Partner of the Year Finalist
Dynamics 365 Customer Service Award
Dynamics 365 Marketing Award
Dynamics 365 Sales Award
Government Award

